

大王のひつぎを運ぶ実験航海

第1部 プロローグ

現在、全国的な注目を集めている馬門石。宇土を舞台にした日本古代史上の謎に皆さんも挑んでみませんか。今回から、来年3月15日まで全15回の予定で、大王のひつぎ実験航海事業に関する連載を開始します

第一回 馬門石のひつぎをめぐる謎

現在、全国的な注目を集めている淡いピンク色に輝く馬門石。約1500年前の古墳時代、この馬門石は、どうして宇土から800kmも遠く離れた当時の先進地・近畿地方の大王をはじめとする有力者の「ひつぎ」として運ばれた

のか？この「宇土を舞台にした日本古代史上の謎」は、考古学ファンだけでなく、私達宇土市民の興味を引き付けて離しません。

西日本各地で発見

馬門石製のひつぎは、岡山県や大阪府、奈良県、滋賀県の計15ヶ所で見つかっていますが、実際に運ばれた数は50を下らないといわれています。陸上交通があまり発達していない当時、約6トンの巨大なひつぎは船を使って海路で運ばれたと考えられています。また、ひつぎの製作場所から船着場までは、修羅と呼ばれるY字の形をした二股のソリに載せて運んだと推定されています。しかし、具体的



馬門石石棺の分布図

にどの程度の人数で運搬したのか、どのような経路を通ったのかなどは、全く謎に包まれています。その謎を解くための最も有効な方法は、石棺と修羅、古代船を復元して実際に大海原を航海することでありますが、様々な制約があり実現するのは不可能と思われていました。



奈良県植山古墳出土の馬門石製のひつぎ

ところが昨年、この古代の謎に挑もうという人達が次々に名乗りを挙げます。そして、継体大王が眠る今城塚古墳（大阪府高槻市）から発見された、馬門石製のひつぎを復元して大阪まで運ぶという、壮大な夢あふれるプロジェクトが動き出すことになるのです。今回は「動き出した大プロジェクト」です。お楽しみに。

「大王のひつぎが運ばれた時代のやきもの展」を開催中

馬門石製のひつぎが運ばれていた頃、約1500年前の古墳時代の人達は、どのような器（うつわ）を使って食事をしたり、水や食料を蓄えたり、お墓にお供えをしたのでしょうか？

現在、宇土市立図書館1階郷土資料室では、「大王のひつぎが運ばれた時代のやきもの展」を開催中です。宇土市内の遺跡や古墳から出土した当時の焼き物を一堂に展示しています。

須恵器（すえき）と呼ばれる朝鮮半島伝来の技術で作った

た硬い灰色の土器を中心に、総数約300点を超える展示ケースいっぱいにな置かれた多種多様な土器は圧巻です。

普段、収蔵庫に保管されていることができない貴重な資料を、この機会にぜひご覧下さい。あわせて馬門石製のひつぎのパネル展示も行っています。

展示期間は10月頃までを予定。図書館の開館時間は、平日が午前9時30分～午後6時、土・日曜は午前9時30分～午後5時まで。木曜日・毎月20日・祝日は休館です。



神ノ木山古墳（野鶴町）出土の須恵器

馬門石に関する問い合わせは市文化振興課文化財係 ☎6500（代表）